（第三種郵便物認可）　中國新聞　2013年（平成25年）6月17日（月曜日）
©中国新聞社 2013
（日刊）

中國新聞
備後
6月17日（月）
発行所
中国新聞社
〒730-8677 電話(082)236-2111
広島市中区土橋町7番1号
備後本社
〒720-0805 電話(084)923-1717
福山市御門町3丁目2番13号
紙面へのご意見・ご要望は
読者広報部☎082-236-2455

脚に静脈が浮く、脚の静脈瘤相
清水クリ
西日本下肢静脈
監修 石原 浩

2階に居室 最古級の町家

福山・鞆に現存

広島国際大教授ら調査「17世紀後半に建造」

放射性炭素の測定で17世紀後半に建築された可能性が高まった澤村船具店所有の町家＝福山市鞆町（撮影・安部慶彦）

福山市鞆町の澤村船具店が所有する木造2階建ての町家が、17世紀後半に建てられた可能性が高いことが広島国際大工学部（呉市）の藤田盟児教授（建築史）たちの調査で分かった。江戸期の町家の2階は幕府の規制で原則、天井の低い「物置」として建てられたが、この町家は大きな窓もある「居室」。藤田教授は「現存する日本最古の2階居室型の町家。人が密集した港町鞆ならではの第一級の遺構」と評価している。（水川恭輔）

この町家は間口約6㍍。2階は高さが1階と同程度で、街路に面して居室と大きな木格子窓がある。藤田教授は建築年代を科学的に割り出すため昨年、国立歴史民俗博物館の坂本稔教授、武蔵大総合研究所の中尾七重氏と、町家の柱とはり、かもいの計5カ所の木の放射性炭素量を測った。

その結果、1、2階に同時期に切られた木が使われ、新しい木でも1655～76年伐採と判明した。その上で「1660～70年代に現状とほぼ同じ2階構造で建った可能性が高い」と結論づけた。

この町家はこれまでも広島大大学院の三浦正幸教授たちが土間の広さなどから17世紀後半築と推定していた。

澤村船具店所有の町家

幕府は1640年ごろから、町人が街路の武士を見下ろす可能性のある2階居室を造るのを禁じていたため「通説に反する」「幕末以降では」などとみる異論も強かったという。

藤田教授の調査では、17世紀築とされる国重要文化財の町家は全国に9棟あるが、いずれも2階は物置。大半は1階に比べ天井が低い「つし2階」で、比較的高いものも居室内の窓はないという。例外的に人が過ごすのも、客に使用人が寝る程度だったという。

ただ、幕府の規制前の17世紀初頭の江戸や京都を描いた絵には、鞆の町家のように街路沿いに大きな窓のある天井の高い2階居室で町人が遊ぶ姿も見られるという。藤田教授は「鞆は地方のため規制も、今回の炭素測定で認められるだろう。17世紀築の町家は現存が少なく、2階居室は極めて珍しい。歴史的価値が広く知られるきっかけになってほしい。

極めて珍しい

広島大大学院の三浦正幸教授（文化財学）の話　17世紀後半築だと認めなかった研究者が行き来するのが考え、江戸初頭に都市に普及していた華やかな2階居室が17世紀後半まで造られたのではないか。同様の遺構はほかになく、国重文級だ」と話している。